中国の伝統的庭院式民居の増改築建築における建築家の時間認識

Architects' Perception of Time through the Renovation of Traditional Courtyard-style House in China

奥山研究室　21M50574　張　紫微　（ZHANG Ziwei）

1. 序

1-1 背景と目的　中国では広大な国土の中、多様な自然環境と文化を背景に、各地域でさまざまな伝統的民居が形成された。その中でも、私的な中庭をもつ庭院式民居はその代表的な事例として位置づけられる。しかし、文化大革命による旧文化の破壊運動や改革開放に伴う急速な都市化によって、その多くが失われた。一方、1982 年の文化財保護法の成立により、中国国内での伝統建築の保存・再生に対する意識が高まったことで、建築家による庭院式民居の増改築事例が多くみられるようになった。そこには、伝統的建築と現代生活の変容といった建築家による伝統と現代の双方に対する総合的な思考が表れていると考えられる。そこで本研究では、建築家が増改築した庭院式民居における設計論を検討することで、建築家の時間認識の一端を明らかにすることを目的とする。

1-2. 庭院式民居の定義と対象資料　建築家の孫大章による『中国民居研究』[1] では、５つの体系から伝統的民居が定義されており、庭院式民居はその中で最も多く事例が示されている。その形式は、中庭の四方を建物で囲む合院式、中庭の四方を建物と界壁が囲む庁井式、合院式と庁井式の複合型である融合式の３つがみられる（図１）。本研究では、中国内外の建築ウェブサイト[2] から庭院式民居の増改築プロジェクトを収集し、その言説から増改築の設計意図と実現手法が読み取れる全 118 事例を資料とした。これらを竣工年、形式、規模、増改築後の用途によって整理し、用途としては個人の住宅として利用されるもの、宿泊施設として利用されるもの、商業施設を設えたもの、地域の公共施設として利用されるものがみられ（図１右側）また、庭院式民居の増改築がはじまった 2000 年代以降の事例数の変化と当時の社会背景を図２に示す。

2. 増改築建築の主題

本章では資料とした言説から増改築に関する設計意図を抽出し、それらの意味内容を比較、検討した[3]。

2-1. 設計意図における時間認識　設計意図には図３の分析例のように、伝統性と現代性を共存させるいった既存の建築物に対する増改築の関係性に関する建築家の認識が読み取れるものがみられ、これを時間認識として内容を検討した（図４ 横軸）。「中国古典的な舞台演劇の文化的記憶を保存し、村が独自の文化や個性を継承できるように活性化させる ...(No.022)」のように、歴史的な要素を保存・継承を目指す【持続】、それに対して「現代の社会構造の変容に伴い、人口規模や空間ニー

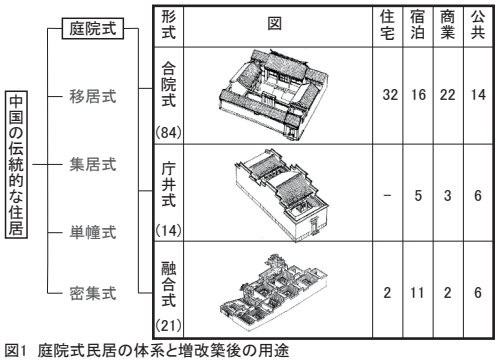


図1　庭院式民居の体系と増改築後の用途

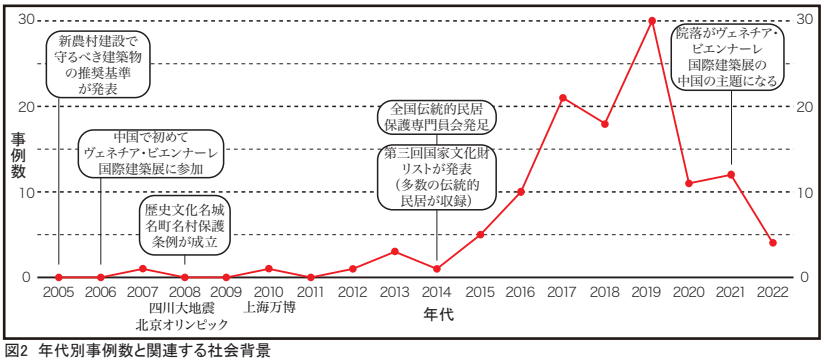
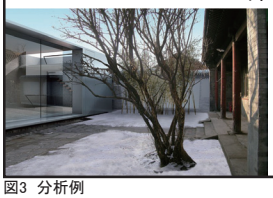


図2　年代別事例数と関連する社会背景

No.1　蔡国强四合院改造　（朱锫建筑设计事务所　2007）



...在这个项目中，我们发展出一套再生的概念，尝试使当代的建筑体与传统的结构得以共生。...老建筑得到了充分的尊重与保护，它就象一个记忆的存储器，记录着历史的每一刻在它身体所存留的痕迹，新建筑钛铝合金的外表极具未来感，并置于老建筑南面的庭院尽头，开启着新老对话的大门。...

...このプロジェクトでは、現代的な建築体と伝統的な構造との共生を試みる再生のコンセプトを展開してみた。古い建物を丁寧に保存し、それらを隠喩的な記憶の箱、過去の跡をその身で残した。そして、増築部分は、チタンアルミ合金の近未来的な外観で南側の庭に配置され、古い建物と新しい建物との対話の扉を開く。...

形式	規模	用途
合院式	単体	住居

2章　増改築建築の主題

設計意図：　強制
着眼点：　建築的

3章　増改築建築の実現手法

基点：　中庭基点型
操作対象：　空間
操作方法：　添加

図3　分析例

ズの異なる家族単位に対応する新しい空間パターンを模索する必要がある ...(No.026-1)」の事例が示すように、現代の生活様式や価値観に合わせて新しい民居を在り方へと【更新】するもの、「清朝時代の建築言語を尊重し、古建築の真髄を残しながら現代的な構造補強や機能拡張を行い、原初の素朴さと時代の進行についていく ...(No.037)」のように、歴史的な要素の継承と、更新の双方を意図した。

2-2. 設計意図の着目点　次に、増改築の設計意図にみられる時間認識が対象とする事柄を着目点として検討した（図４詳細）。その結果、建築の形式、配置、形態などの表現や空間の性格、空間の体験、建築技術といった《建築》に関するもの、建築と周辺環境、市町村との関係、自然景観などを主題とする《都市・自然》、生活環境、政策改定、歴史文化などの《社会・文化》で捉えることができた。

2-3. 時間的認識と着目点の対応関係　ここまでに検討した時間認識と着目点の対応関係を図４に示す。

まず《建築》に着目すると、時間認識において【共生】と【更新】が多くみられた。前者は伝統的表現と現代生活で求められた機能の両立が思考され、伝統的民居の維持を前提として、現代の技術力や機能性を包含する空間を組み込むことを目指すものである。一方で、後者は伝統的な意匠の保全よりも、増改築による新たな体験などの現代歴価値に重きを置くものである。

《都市・自然》においても、【共生】と【更新】が多くみられた。前者は都市景観の変容に対して、伝統的建築がもつ特有の意匠表現を時代に合わせて更新することで、現在の都市構造の中に馴染ませる意図を読み取れる。後者は現存の都市開発が進んでいない地域に新たな建築的操作を取り入れることで、都市環境全体の更新を促すといった意図が読み取れる。

一方、《社会・文化》では、【持続】の時間認識が多くみられた。これは、生活環境や経済変化、政策改定といった社会状況の変動に対して距離をとり、昔ながらの地域特有の文化や精神、歴史的価値を今後の社会に持続させていきたいという建築家の意思が読み取れる。

3 章 . 増改築建築の実現手法

本章では、設計意図に対応する増改築の実現手法を検討する。

3-1. 操作の基点　まず、増改築における設計の中心となる場所を増改築の基点として検討した。中庭は庭院

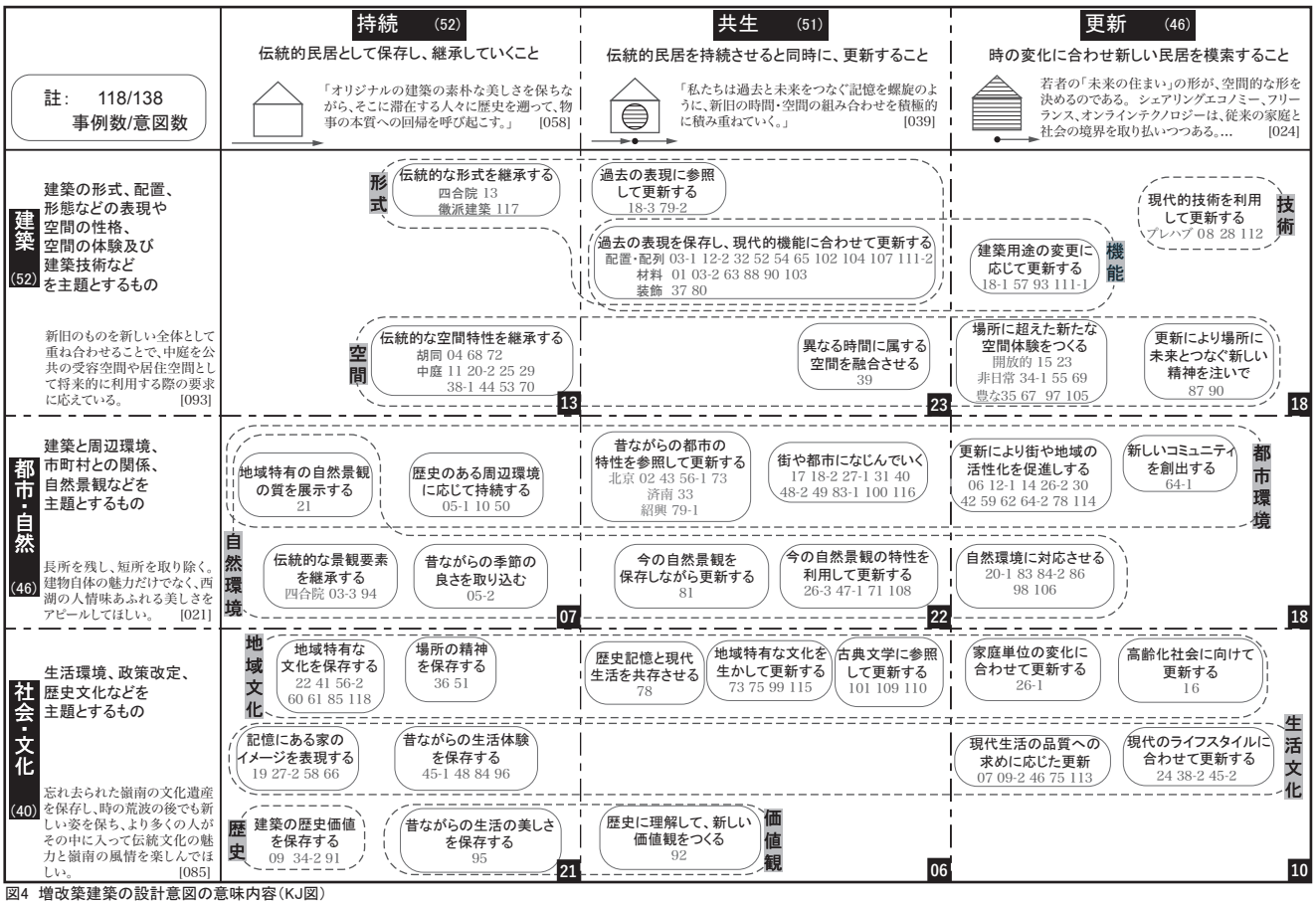


図4 増改築建築の設計意図の意味内容（KJ図）

式民居の最も重要な特徴の一つであることから、中庭が中心となる［中庭基点型］、中庭を基点とせずに室内空間や隣接する空間などを基点とする［非中庭基点型］の２つに大別した（図５上段）。

3-2. 操作の対象　次に、増改築の操作が施される対象部分を整理した（図５中段）。その結果、中庭全体や特定の質といった三次元の広がりを対象とする〈空間〉と床、壁、構造部材といった局所的な要素を対象とする〈部材〉に分類した。〈空間〉は、操作対象が建築の内部か外部のいずれかであることが明確に判断できることから、［内部空間］と［外部空間］の２つに分類でき、さらに、〈部材〉では、［床･壁･天井］などの面的な部材、［柱・梁］のような線的な部材、［家具や植栽］などの点在する部材の３つで分けて捉えることができた。

3-3. 操作の方法　続いて、増改築によって既存の状態にどのような操作が施されたか検討する（図５下段）。部分的に改修する事で、空間の形態や機能、室や家具の配置や配列、部材の性質や材質感、装飾などの空間表現を既存の状態から変える「変更」、既存の状態を保持したまま新たに空間表現を付け加える「添加」の２つから捉えた。

3-4. 操作対象と操作方法との対応関係　前節でとらえた増改築の操作の基点、対象、方法の対応関係を図６に示す。まず、操作の基点に関して、『中庭基点型』は全体の半数以上を占めることから、庭院式の伝統的民居の増改築に対して、建築家の大半は中庭を中心に設計を展開しており、伝統に対して忠実な姿勢である傾向が確認できた。操作の対象に関しては、〈空間〉と〈部材〉の双方に行われた資料が多くみられたことから、建築家が増改築を行う際、空間的な操作だけではなく、部材のような局所的な操作を施すことで、伝統と現代の要素の共存という課題に応答していると考えられる。操作の方法に関して、「変更」のみを行う資料が最も多いことから、多くの建築家は現在ある建築の姿よりも過去あるいは未来に重きを置いているといえる。それに対し、「添加」のみを行う資料も確認されたことから、現在の建築の姿を部分的或いは全体的にその価値を認め、伝統的民居の可能性を模索する建築的実践もみられる。また、操作の基点と対象と方法の対応をみると、『中庭基点型』において〈空間〉を「変更」するものが比較的多いことから、伝統的な形式をもつ民居の建築空間を大幅に更新し、先を見据えた新たな建築を提案する建築家も多数いることが読み取れる。

4 章．　建築家の時間認識と実現手法

２章で検討した増改築の設計意図における時間認識と３章で捉えた実現手法の対応関係を検討した（図 7）。まず、設計意図におけるの時間認識のいずれに対しても、『中庭基点型』が多数を占め、〈空間＋部材〉という複数が操作対象となる傾向が確認された。これは、隣り合う建築空間が中庭と、密接な関係を築いており、単純な操作では伝統の持続や更新が難しいことを示している。このことから、多くの建築家は中庭を基点として全体的にも局所的にも増改築を施しており、伝統的な形式を保ちながらも意匠表現は現代に適応させようと試みていると考えられる。

一方で、『非中庭基点型』では〈空間〉のみの操作や〈部材〉のみの操作が比較的多く確認された。これより、中庭以外の空間に着目することで、建築家は部分的な

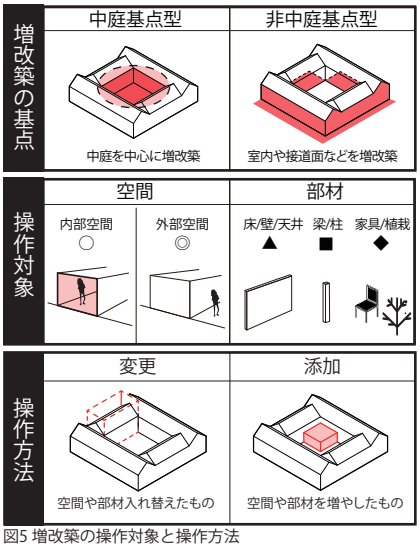


図5 増改築の操作対象と操作方法

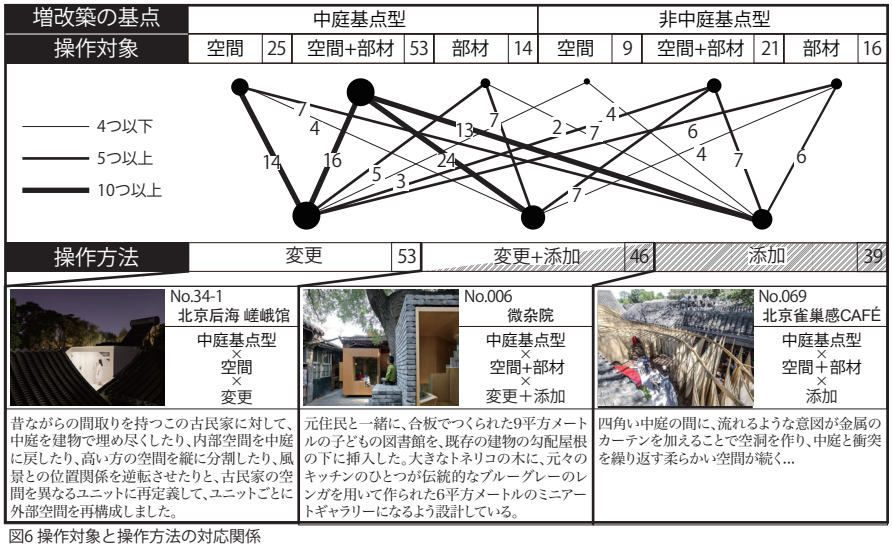


図6 操作対象と操作方法の対応関係

操作で伝統的民居を現代に適応させようと試みていると考えられる。

また、【更新】において、『中庭基点型』では〈部材〉のみを増改築する資料が見当たらず、全てが〈空間〉の 操作が施されていることから、庭院式民居の伝統性を保 ちながら現代に適合させるような設計を行うには、三 次元的な広がりをもつ操作が必要だといえる。例えば、No.023 では「中庭のもつ厳粛なイメージを一新し、近隣を活性化する」というように、内部空間の印象を大胆に変貌させるような思考もみられた。

さらに、【持続】における《建築》では『中庭基点型』の割合が著しく大きく、これは庭院式民居における建築的伝統を持続させるために中庭という形式は重要であることが裏付けられる。例えば No.004 では「中庭を動線組織の中心に戻し、建物の内部に活動スペースを導入する」というように中庭の建築構成的な特徴を最大限に発揮させるような資料がみられる。

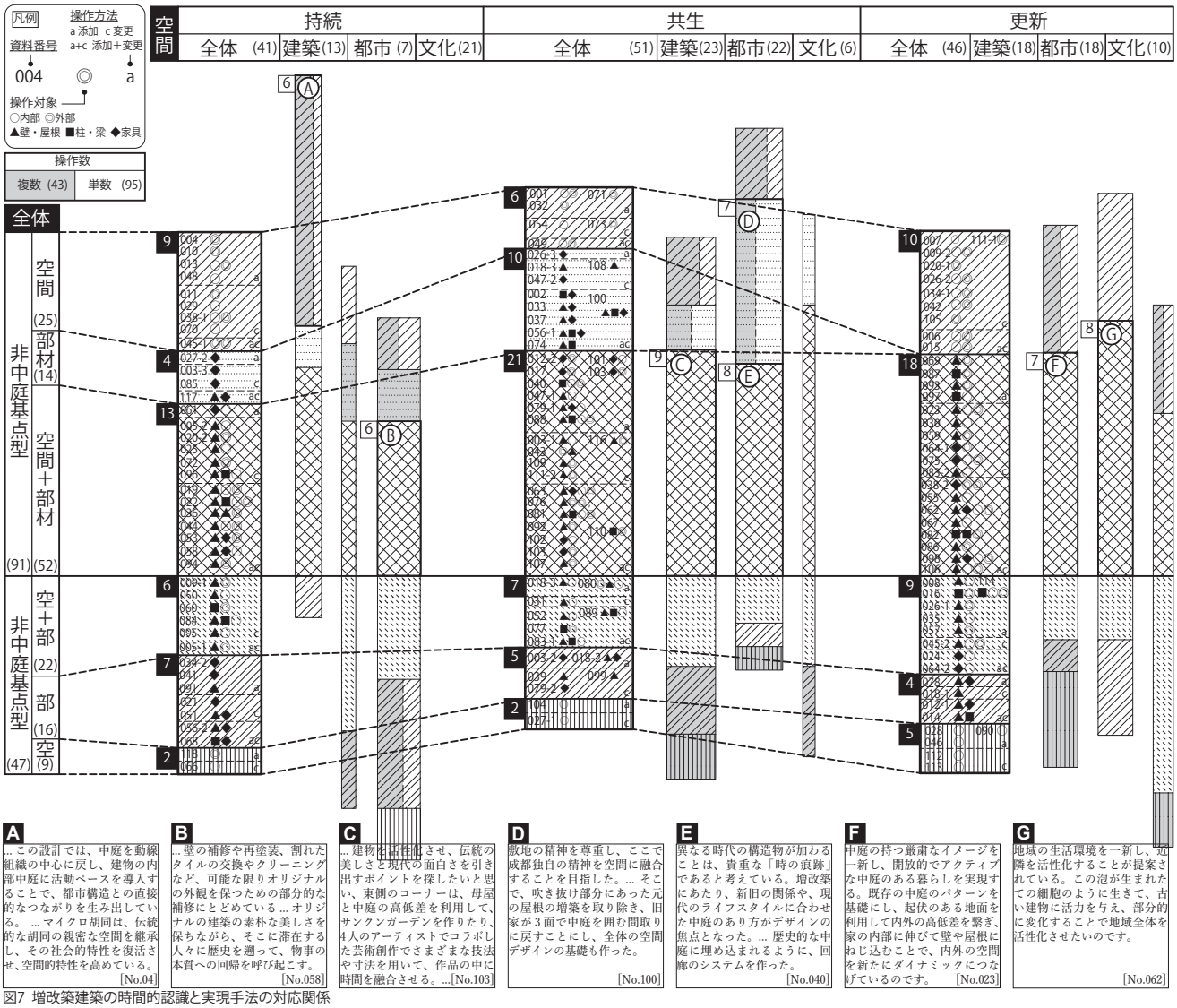
5. 結

以上、伝統的庭院式民居の増改築建築の設計意図における建築家の時間認識の枠組みと、それに対応する実現手法を検討した。その結果、建築家は現代社会の中で伝統的建築の持続や都市の変化に伴った住居の更新など、どちらかの思考に偏るのではなく、双方の思考を複合して共生させる試みが多くみられる。特に、時代の変遷による日常生活の変化に対して、長い年月を掛けて獲得し存続した、固有の地域環境と建築における伝統的表現を捨て去ることなく、空間の気質と部材の耐久性を考えながら、伝統性と現代性の調和ある共存を実現する思考が多くみられることを明らかにした。

註 1) 孫大章（2004）「中国民居研究」中国建築工業出版社出版

註 2) ここでは、建築ウェブサイト Goooodと Archdaily に載せられた中国の増改築プロジェクトを通覧し、庭院式伝統的民居の増改築プロジェクトに対する言説を抽出すできるものを資料としている。

註 3) ここでは、KJ 法をもとに増改築の設計意図の意味内容を分類、整理している。川喜田二郎『発想法』中央公論社



A
... この設計では、中庭を動線組織の中心に戻し、建物の内部中庭に活動ベースを導入することで、都市構造との直接的なつながりを生み出している。 ... マイクロ胡同は、伝統的な胡同の親密な空間を継承し、その社会的特性を復活させ、空間的特性を高めている。 [No.04]

B
... 壁の補修や再塗装、割れたタイルの交換やクリーニングなど、可能な限りオリジナルの外観を保つための部分的な補修にとどめている ... オリジナルの建築の素朴な美しさを保ちながら、そこに滞在する人々に歴史を遡って、物事の本質への回帰を呼び起こす。 [No.058]

C
... 建物を活性化させ、伝統の美しさと現代の面白さを引き出すポイントを探したいと思い、東側のコーナーは、母屋と中庭の高低差を利用して、サンクンガーデンを作りたり、4人のアーティストでコラボした芸術創作でさまざまな技法や寸法を用いて、作品の中に時間を融合させる。...[No.103]

D
敷地の精神を尊重し、ここで成都独自の精神を空間に融合することを目指した。... そこで、吹き抜け部分にあった元の屋根の増築を取り除き、旧家が 3 面で中庭を囲む間取りに戻すことにし、全体の空間デザインの基礎も作った。 [No.100]

E
異なる時代の構造物が加わることは、貴重な「時の痕跡」であると考えている。増改築にあたり、新旧の関係や、現代のライフスタイルに合わせた中庭のあり方がデザインの焦点となった。... 歴史的な中庭に埋め込まれるように、回廊のシステムを作った。 [No.040]

F
中庭の持つ厳粛なイメージを一新し、開放的でアクティブな中庭のある暮らしを実現する。既存の中庭のパターンを基礎にし、起伏のある地面を利用して内外の高低差を繋ぎ、家の内部に伸びて壁や屋根にねじ込むことで、内外の空間を新たにダイナミックにつなげているのです。 [No.023]

G
地域の生活環境を一新し、近隣を活性化することが提案されている。この泡が生まれたての細胞のように生きて、古い建物に活力を与え、部分的に変化することで地域全体を活性化させたいのです。 [No.062]

図7 増改築建築の時間的認識と実現手法の対応関係